Hokkaido University Institute for the Advancement of Higher Education

ニュースレター

北海道大学 高等教育推進機構　Newsletter　No. 124

2022年度夏季休暇中における
「全学インターンシップ（国内）」を実施　（３ページ）

2022年度経済同友会と連携したインターンシップ
プログラムは11社11名の参加　（４ページ）

（詳しい目次は裏表紙にあります）

巻頭言 FOREWORD

次世代教養教育の構築に向けて
―教養教育将来構想検討タスクフォース報告―

副学長　弛　和順

■はじめに

昨年（2021年）３月，山口淳二理事・副学長の指示のもと，教育改革室などの既存審議組織から独立する形で，教養教育将来構想検討タスクフォースが設置されました。このタスクフォースは，本学学士課程における教養教育に特化した中長期的な将来構想に関する検討を主たる任務とし，その現状を分析した上で，これまで構築されてきた実施体制の利点を活かしながら，改革・改善に向けた一定の提言を行うことを目的としたものです。

メンバーは，髙橋彩教授（高等教育推進機構），池田文人教授（高等教育推進機構），そして座長の小職の３名から構成され，あわせて事務局より学務部学務企画課・教育推進課の課長および課長補佐４名に参画いただきました。

会議は，昨年３月22日に第１回を開催し，以後，本年３月８日までの約１年間，計10回の協議を重ねました。その中，施設・環境計画室総長補佐の小澤丈夫教授からは，高等教育推進機構の教育設備の将来計画について教示いただき，また九州大学基幹教育院長の谷口説男教授からは，同大学基幹教育の現況について説明を受け，さらに本学全学教育部長の佐々木啓教授，総合教育部長の鈴木久男教授からは，提言全体に関する助言を頂戴しました。

かくして検討内容をとりまとめた報告書は，今年３月17日の教育改革室会議で審議・検討された上で，６月６日の役員・副学長連絡会議で口頭説明しました。小文は，その報告書を概括して説明すると

ともに，その後の進捗状況について報告するものです。

■現状分析と問題点

周知のように，現代社会における急激な変化にともない，これからの大学生に求められるスキルとマインド，また今後の教養教育のあり方をめぐっては，中央教育審議会の答申や教育再生実行会議の諸提言など，さまざまな議論が行われています。そうした中で，本学は，①入学者の受入れに関する方針，②教育課程の編成・実施に関する方針，③卒業認定・学位授与に関する方針のいわゆる３つのポリシーによる質保証において，教養教育がどのように寄与するか，確と定められてはいません。この教養教育の役割を明確化するとともに，本学における教養教育の必要性とその定義づけの検討などが急務とされています。

一方で，本学の教養教育の基本的なカリキュラムや実施体制は，1995年の学部一貫教育と全学教育の開始以降，特に大きな変更もなく維持されてきました。しかし，30年近くが経過し，また学院・研究院構想が進行したことによって，教員組織体制と全学教育体制との間に乖離が生じ，全学教育のカリキュラムと実施体制を含めた改革が必要な段階となりつつあります。

■教養教育改革の必要とその方向性

こうした学内外の状況を踏まえつつ，現に顕在化する全学教育に関するさまざまな課題の解決に向けては，本学における教養教育の再定義から始める必要があります。ややもすれば，教養教育の上位に専門教育が存在するかのような誤解もありますが，教養教育と専門教育とは相互補完の関係にあり，本来，両者は並行して実施されるべきこと，いうまでもありません。とりわけ，昨今重視されるのが，後期教養の必要性です。今後の教養教育は，学部高年次はもとより，さらに大学院へと連続して実施されるべきものと考えられています。

その上で，本学の場合は，全学教育科目（教養科目・基礎科目など），専門横断科目，国際交流科目，外国語教育等について，体系的な検証とその改善が求められます。それに際して，現行のコアカリキュラムの点検はいうまでもなく，上記の各科目の趣旨や位置づけ，枠組全体の見直し（全学教育科目の卒業要件や必要単位数などの検証を含む），さらには開講科目数の適正化，科目別クラス（特に理系基礎科目）の改善，コンピテンシー評価の導入など，さまざまな角度からの検討が不可欠です。加えて，本学への帰属意識を高める教育，キャリア教育，SDGs教育，STEAM教育，リーダーシップ教育など，時代に即した新たな教養教育の導入も視野に入れる必要があります。

また，実施体制についても，一定程度は大規模授業を認めつつ，少人数授業の拡大を図るとともに，DX（デジタルトランスフォーメーション）などを活用した新たな形態の授業開発を通して，授業担当教員の負担軽減を目指すことも重要と思われます。

■次世代教養教育構築に向けての具体化

このような教養教育改革の実現に向けて，報告書では，具体的方策として，教育改革室および全学教育委員会に以下の３つのプロジェクトチームを設置することを提起しました。

（１）教育改革室「北大次世代教養教育プロジェクトチーム（仮称）」
（２）全学教育委員会「コンピテンス策定プロジェクトチーム（仮称）」
（３）教育改革室「授業ＤＸプロジェクトチーム（仮称）」

なお，（１）のプロジェクトチームの下には各課題にあわせてワーキンググループを設置し，詳細な検討を行うことを予定しています。

こうした経緯を経て，今年度に入って，まず，教職員13名から成る「学士課程次世代教養教育検討プロジェクトチーム」を組織するとともに，本年７月１日に第１回会議が開催されました。現在は，北大ならではの次世代教養教育のビジョンについて，検討が行われているところです。

いうまでもなく，本学における新たな教養教育を構築するには，多方面からの検討と改革に加えて，全体の調整なども必要であり，一朝一夕に成案を得ることは難しいかも知れません。とはいえ，次世代を担う学生に真に必要な教養教育の実現には，必ず越えなければならないハードルでもあります。四半世紀に一度の大改革と捉えて，鋭意努力しますので，ご理解とご協力のほど，切にお願いする次第です。

学生支援 STUDENT SUPPORT

2022年度夏季休暇中における「全学インターンシップ（国内）」を実施

キャリアセンターと共同で，全学教育科目として「インターンシップＡ・Ｂ（国内）」を開講していますが，今年度についても夏季休暇を中心とした実施に向け，学生と企業の希望のマッチング，事前研修などを行いました。今年度の学部，研究科・学院別，学年別の参加者数は表１のとおりです。新型コロナウイルスの影響により一昨年，昨年はインターンシップの実施を中止する企業やオンラインのみで実施する企業も多かったのですが，今年度は対面での実施も昨年度よりは増加しました。

参加が決まった学生に対しては７月２日，３日，９日，10日に講義形式の事前研修を実施し（写真１），その後，１名あたり15分の個人面談も実施しました。この事前研修や個人面談では，インターンシップ先の企業・団体や業界等の研究を行うとともに，インターンシップを通じて検証したい仮説をインターンシップ前に設定し，インターンシップを通じてその検証を行う予定です。この仮説の設定・検証は，２週間程度という短期間のインターンシップの効果をより高めるため，北大独自の方式となっています。また，最近企業からの要望が多い守秘義務の徹底についてもこれまで以上に時間を割いて説明を行いました。

これらを経て，参加学生はそれぞれの企業・団体で夏季休暇中にインターンシップ実習を行っています。

インターンシップ終了後には，１ヶ月以内に研修成果レポートを各自提出するとともに，10月26日には，参加学生の「インターンシップ成果発表共有会」をオンラインで開催し，受入企業にも参加していただき，インターンシップの成果を共有する予定です。

（亀野　淳）

表１　全学インターンシップ（国内）参加者数

①　学　部

学部＼学年	１年	２年	３年	４年以上	計
文学部	2	3	6	1	12
教育学部			3		3
法学部	3	7	5		15
経済学部		3	9		12
理学部		1			1
医学部保健学科			1		1
工学部		5	4		9
農学部		3	5		8
水産学部	1	3	3		7
総合理系	1				1
計	7	25	36	1	69

②　大学院

研究科・学院＼課程・学年	修士１年	修士２年	博士	計
文学院	1			1
教育学院	1			1
水産科学院	1			1
環境科学院	2			2
公共政策大学院	1			1
計	6	0	0	6

写真１　「全学インターンシップ事前研修」の様子

2022年度経済同友会と連携した インターンシッププログラムは11社11名の参加

2016年度から公益社団法人経済同友会が実施するインターンシップに参加してきましたが，このインターンシップをより発展させるという観点から2019年度より経済同友会が中心となり「一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会」が設立され，本学も正会員として参画することとなり，同協会の一員として夏季休暇中にインターンシップを毎年実施しているところです。

本インターンシップは経済同友会が提唱した学部１，２年生からの３～４週間程度のより教育的要素を強くした長期インターンシップですが，今年度も，やや期間も短くなったものの，対面とオンラインとの併用で実施されました。高等教育推進機構では，５月中旬から参加希望学生の募集を行い，その後，書類審査と面接により，住友林業，JR東日本，アスクル，イオン，第一生命保険，武田薬品工業，三菱ケミカル，双日，損害保険ジャパン，三井住友銀行，三井不動産の11社11名の学生の派遣を決定しました（表１）。

（亀野　淳）

表１　2022年度　経済同友会と連携したインターンシップ参加企業・学生一覧

企業名	実働日数	開始日	終了日	実施方法	学部	学年
住友林業	6	８／22	８／29	オンライン	農学部	2
武田薬品工業	10	８／29	９／９	ハイブリッド	水産学部	2
三菱ケミカル	5	８／29	９／２	オンライン	理学部	2
東日本旅客鉄道	10	９／５	９／16	対面	工学部	2
アスクル	5	９／５	９／９	オンライン	法学部	2
イオン	5	８／22	８／26	オンライン	経済学部	2
双日	5	８／22	８／26	対面	農学部	2
損害保険ジャパン	5	９／５	９／９	オンライン	法学部	1
第一生命保険	5	９／５	９／９	オンライン	経済学部	2
三井住友銀行	5	８／29	９／２	オンライン	法学部	1
三井不動産	8	８／22	９／８	ハイブリッド	法学部	2

新任紹介 INTRODUCTION OF NEW STAFF

着任のご挨拶

高等教育推進機構　キャリアセンター
特任講師　川上　あき

2022年４月１日付けで高等教育推進機構に着任しました川上あきと申します。

キャリアセンターの副センター長を拝命し，本学学生のキャリア支援やキャリア教育に携わっております。

北海道大学法学部/法学研究科を修了した後，民間企業にてマスコミ・広告関係業務，採用・就職支援業を経て，北海道大学にまいりました。本学キャリアセンターの特定専門職員としてキャリア支援に携わり，そののちは本学事務職員として，広報課や学務企画課を異動し，この４月からは教員として高機構に着任した次第です。

また，４月に新しく発足した大学院教育推進機構の博士人材育成部の兼務も拝命し，進学を含めた本学学生の幅広いキャリアパス形成の支援や情報発信を担当してまいります。

色々な学生の方や研究者の方を紹介するコンテンツにむけた取材などもしておりますので，ご協力を依頼させていただいた際にはよろしくお願いします。

民間企業での経験，事務職員としての経験をつなげ，学内の各部署や学外との連携を強化しながら，北大生ならではの自立的なキャリアパスや本学におけるより充実した学びの提供について，キャリアの目線から追求していきたいと考えております。
どうぞ，よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

高等教育推進機構　国際教育研究部（ISPユニット）
助教　スクリムシャー・トラビス

2022年７月から国際教育研究部に着任いたしましたTravis SCRIMSHAW（スクリムシャー・トラビス）と申します。2015年にシリング・アン先生の指導の下，カリフォルニア大学デービス校で博士号を取得しました。北海道大学着任以前は，ミネソタ大学，クイーンズランド大学，大阪市立大学（現・大阪公立大学）で研究員（大阪市立大学においては日本学術振興会外国人特別研究員）や教員を歴任しました。

北海道大学では，ISPの数学の授業を教えます。留学生と会うのが楽しみです。私は量子力学や確率論への応用を伴う代数的組合せ論を研究している数学者です。特に，対称性の研究である表現論に基づいた研究をしています。ベクトル空間などの代数的な対象を，容易に数え上げや対称性の組み込みが可能な離散の対象に変換するといったものです。2010年からは，オープンソースの数学ソフトウェアSageMathへの貢献もしています。学生を含むどんなレベルでの研究も手助けしたいと思っています。数学は誰にでも勉強できるものだと信じており，学生が数学を探究し，楽しみ，理解するのをぜひ手伝いたいと思っています。

米国のサンフランシスコ近郊のカリフォルニア州ダブリンで育ちました。趣味はロッククライミング，旅行，料理です。2012年から定期的に日本を訪れており，札幌市に住む機会を得たことを大変嬉しく思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

日誌 EVENTS, *April–September*

4月

4日・5日（行事）
新渡戸カレッジ入校説明会（対面・オンライン実施）（大学院）

5日（行事）　新入生オリエンテーション，総合教育部ガイダンス

8日（行事）　新渡戸カレッジ入校説明会（対面）（学部）

8日（会議）　第1回新渡戸カレッジ執行部会

8日～13日（会議）
令和4年度第1回高等教育推進機構運営委員会（メール審議）

21日（会議）　ELMS定例会

21日・22日（行事）
新渡戸カレッジオナーズプログラムガイダンス(対面・オンライン実施)（学部）

22日（会議）　第1回学生委員会（持ち回り）

23日～5月1日（行事）
新渡戸カレッジ第1回対話プログラム（学部）

26日（会議）　第1回授業評価専門部会

27日（会議）　令和4年度第2回高等教育推進機構運営委員会（Web会議）

28日（会議）　オープンエデュケーションセンター連絡会

28日（会議）　第1回新渡戸カレッジ運営会議大学院教育コース教務専門委員会（オンライン実施）（大学院）

5月

9日（会議）　第1回新渡戸カレッジ運営会議学部教育コース教務専門委員会（オンライン実施）（学部）

10日（会議）　第2回新渡戸カレッジ執行部会

11日（会議）　入学者選抜委員会

12日（会議）　令和4年度第1回大学院教育推進機構運営委員会（Web会議）

13日～18日（会議）
令和4年度第3回高等教育推進機構運営委員会（メール審議）

14日（行事）　新渡戸カレッジ入校式（対面・オンライン実施）（学部・大学院）

14日（講演）　2022年度CoSTEP開講特別プログラム「ハレとケのコミュニケーション～いい塩梅をかなえる日常の視点～」

17日（会議）　第1回高等教育推進機構総合教育委員会学生専門委員会

18日（行事）　新渡戸カレッジ特別講演会「英語のちから, 母語のちから」（対面実施）（学部）

19日（会議）　ELMS定例会

20日（行事）　第1回新渡戸カレッジフェロー交流・研修会(オンライン実施)(学部)

20日（会議）　第1回新渡戸カレッジ運営会議（オンライン実施）

26日（会議）　オープンエデュケーションセンター連絡会

27日　令和5年度国際総合入試・帰国子女入試学生募集要項公表

30日（研修）　オンライン授業の今後をどう展望するか～学生,教員アンケートの結果を基に考える～

30日（会議）　第1回教育改革室会議(オンライン)

6月

1日（会議）　第1回総合教育委員会

3日（会議）　第3回新渡戸カレッジ執行部会

3日（会議）　第116回教務委員会（メール審議）

4日（研修）　北大教職員対象　新渡戸カレッジ主催FD「研究と教育に役立つプロジェクトマネジメントスキル」（大学院）

15日（行事）　学生企画行事「北大から世界へ～グローバルに学べる情報～」（学部）

15日　令和5年度フロンティア入試学生募集要項公表

16日（会議）　ELMS定例会
17日～23日（会議）
令和４年度第４回高等教育推進機構運営委員会（メール審議）
18日（行事）　2022年度第１回新渡戸カレッジメンターフォーラム（大学院）
19日（行事）　第123回サイエンス・カフェ札幌「ボウッとしてんじゃねーよ！ハイスピードカメラが捉える燃焼の世界」
24日（会議）　オープンエデュケーションセンター連絡会
28日（研修）　北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動
28日（会議）　第２回教育改革室会議（オンライン）

７月

１日（研修）　Teaching in English【入門編】
１日（会議）　第４回新渡戸カレッジ執行部会
２日～10日（行事）
新渡戸カレッジ第２回対話プログラム（学部）
７日（会議）　第１回新渡戸カレッジ評価委員会
８日（研修）　第１回「高等教育における障害のある学生の支援に関する研修会」
12日（会議）　入学者選抜委員会（臨時）
14日（研修）　第１回OECのお～い知ってる？ハイブリッド型授業　ランチセミナー＆相談会「お～い知ってる？ハイブリッド型授業の事始め」
14日（行事）　「新型コロナ問題を語る学生座談会」
17日（講演会）合理的配慮が必要な留学生への対応を考える―カナダの大学を事例として
19日（行事）　「2022サイエンスパーク」（オンライン）
21日（会議）　ELMS定例会
21日（会議）　第２回高等教育推進機構総合教育委員会学生専門委員会
22日（会議）　第２回授業評価専門部会
22日（会議）　第２回学生委員会（持ち回り）
27日（行事）　新渡戸カレッジ特別講演会「老舗企業のグローバル対応～他人のふりみて，わがふりなおせ～」（対面実施）（学部）
27日　令和５年度入学者選抜要項公表
27日（説明会）北海道大学入試説明会
29日（会議）　オープンエデュケーションセンター連絡会

８月

３日（会議）　令和４年度第５回高等教育推進機構運営委員会（Web会議）
７日（行事）　第124回サイエンス・カフェ札幌×環境研究総合推進費公開シンポジウム「こちら，ウミガメ研究チーム～細胞×毒性×AI ラボから救え！小笠原の希少種」（オンライン）
７日～８日（行事）
オープンキャンパス
10日（研修）　教育における異文化コミュニケーション
20日（行事）　はこだて国際科学祭2022「CoSTEPと，「食」を考える」（オンライン）
25日（研修）　第２回 OECのお～い知ってる？ハイブリッド型授業　ランチセミナー＆相談会「Moodleを使ったレポート評価－ルーブリックの活用－」
25日（会議）　第３回教育改革室会議（オンライン）
31日（会議）　第117回教務委員会（メール審議）
８月下旬（会議）
令和４年度　第１回大学院共通教育委員会（メール審議）

９月

８日（研修）　第３回OECのお～い知ってる？ハイブリッド型授業　ランチセミナー＆相談会
６日～16日（研修）
実用英会話（業務英会話）

15日（会議）　ELMS定例会
15日（研修）　学生相談講演会　多様な学生を支える学内連携～よりよい支援のために～
18日（行事）　第125回サイエンス・カフェ札幌
20日（行事）　学部・学科等移行ガイダンス（オンデマンド配信）
20日（行事）　新渡戸カレッジ修了式（大学院）
24日（行事）　ホームカミングデー（キャンパスツアー）
26日（行事）　学位記授与式（博士）
27日（会議）　第２回新渡戸カレッジ運営会議
28日（会議）　第４回教育改革室会議(オンライン)
30日（行事）　学部・学科等紹介
30日・10月３日（行事）
新渡戸カレッジ入校説明会（対面・オンライン実施）（大学院）

行事予定 SCHEDULE, *October–March*

◆10月

3（月）～7（金）
　学部・学科等移行手続き（予備志望調査）*
3（月）　第2学期授業開始日
12（水）　予備志望調査結果発表*
13（木）～14（金）
　履修時間割確認期間

◆11月

24（木）～28（月）
　履修登録科目の取消期間（Web）

◆12月

1（木）～5（月）
　自由設計科目登録変更期間
29（木）～1/4（水）
　冬季休業日

◆1月

5（木）　授業再開
13（金）　大学入学共通テスト準備（休講）
14（土）～15（日）
　大学入学共通テスト
24（火）　火曜日の授業終了日
31（火）　初習外国語統一試験日（通常授業は休講）

◆2月

1（水）　水曜日の授業終了日
2（木）　木曜日の授業終了日
3（金）　金曜日の授業終了日
6（月）　月曜日の授業終了日（第2学期授業終了日）
7（火）　学部・学科等移行ガイダンス*
8（水）　学部・学科等紹介
13（月）正午
　成績報告締切（常勤［Web入力］）
13（月）正午
　成績報告締切（非常勤［帳票］）
17（金）　全学教育科目成績Web上公開
17（金）～20（月）
　全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
25（土）～26（日）
　一般選抜個別学力検査等（前期日程）

◆3月

1（水）正午
　全学教育科目成績確定
1（水）午後～
　第1年次進級判定
1（水）午後
　学部・学科等移行手続き*
～3/23（木）
　（第1回志望調査～各学部振り分け）
12（日）　一般選抜個別学力検査等（後期日程）

*総合入試入学者のみ対象

ニュースレター　2022，No.124　目次

（巻頭言）次世代教養教育の構築に向けて
―教養教育将来構想検討タスクフォース報告―
…… 弛　和順　1

2022年度夏季休暇中における
「全学インターンシップ（国内）」を実施 …… 3

2022年度経済同友会と連携したインターンシップ
プログラムは11社11名の参加 …… 4

新任紹介 …… 5

日誌 …… 6

行事予定 …… 9

目次・編集後記 …… 10

編集後記

コロナ禍をきっかけに，健康維持を目的としてジョギングを始め３年経ちました。

しかし，走っていて楽しいとか，走るのが好きだ，気持ちいいといった感情を持つことはありません。それなのになぜ，私は目標を徐々に高めながら継続しているのでしょうか。おそらく，自分がどこまでできるのか知りたいという好奇心，スマホに蓄積された走行記録を眺め，この歳でも年々成長しているという実感から得られる喜び，この二つが大きな要因ではないかと思います。いつどのような理由で止めることになるか，興味深いです。

（栗之介）

ニュースレター

（北海道大学高等教育推進機構広報誌）
通算 第 124 号

発行日：　2022年10月31日

発行元：　北海道大学高等教育推進機構
〒060-0817 札幌市北区北17条西８丁目

編集委員：◎亀野淳・飯田直弘・岩間徳兼・山本堅一
ご意見，お問い合わせは◎印の編集委員まで
電話（011）706-7514，FAX（011）706-7521

インターネットホームページ：
https://high.high.hokudai.ac.jp/publication/newsletter/